

(仮称) 第2 一般廃棄物最終処分場

基本設計

概要版

平成31年3月

所 沢 市

1. 基本設計の概要

基本設計では、平成 28 年度に策定した「(仮称) 第 2 一般廃棄物最終処分場基本計画 平成 29 年 3 月」を基本に、必要埋立容量の設定、施設配置計画の見直し、最終処分場を構成する各施設の基本検討及び構造検討等を行いました。

また、施設を整備するうえで必要となる手続きや準拠する基準等を確認するため、関係機関等との事前協議を行い、その結果を基本設計に反映しました。

基本設計では、本処分場が地域に受け入れられ、安全・安心な最終処分場となるよう、以下の 3 つの項目に配慮しております。

○周辺の豊かな自然環境と調和した施設とします。

○現況地形を活かし、みどり豊かな施設とします。

○信頼の高い技術による安全・安心な施設とします。

また、本処分場に対して、地元の皆様に親しみを感じていただけるよう、

愛称を「(仮称) やなせみどりの丘」とします。

本事業の概要を右表に示します。

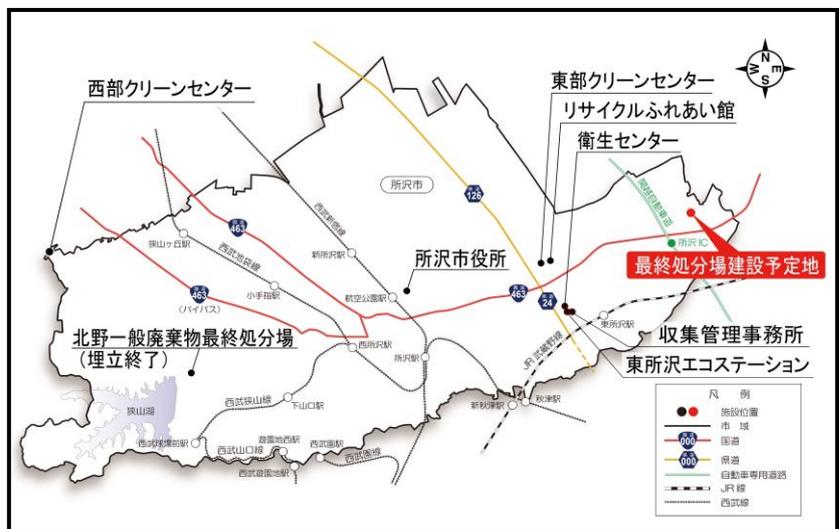
事業概要	
施設の種類	一般廃棄物最終処分場 (被覆型最終処分場)
建設予定地	所沢市大字南永井地内外
事業面積	約6.0ha
埋立容量	約130,000m ³
埋立面積	約13,700m ²
埋立地の形状	長辺約130m×短辺約105m×深さ約11m
埋立廃棄物	焼却残渣、不燃残渣、資源ごみ残渣
概算工事費	約66億円

2. 建設予定地

本処分場の建設予定地は、所沢インターチェンジの北東に位置し、南側に国道 463 号が通っています。

また、建設予定地は、直線距離で西部クリーンセンターから約 14km、東部クリーンセンターから約 4 km 離れた場所になります。

右図に建設予定地の位置図を示します。



3. 最終処分場の配置計画

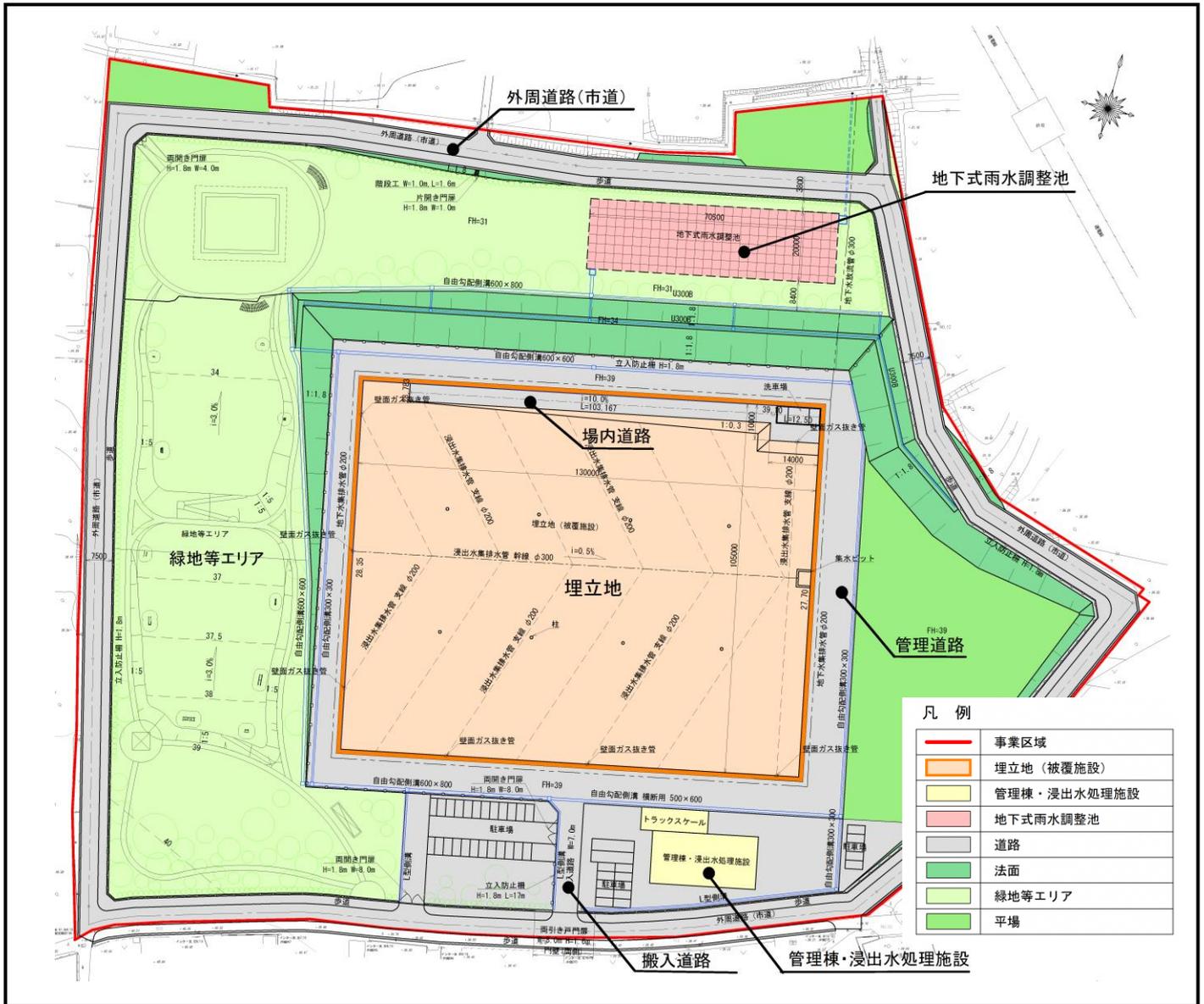
基本設計では、以下に配慮し施設の配置計画を決定しました。

○被覆施設の圧迫感を低減するよう南側敷地境界からの離隔を確保する。

○敷地の西側と北側に、現況地形を活かした緑地等エリアを配置する。

○地質調査で想定される地下水位による影響を低減する。

本処分場の配置計画平面図とパースを次頁に示します。



最終処分場配置計画平面図 (案)



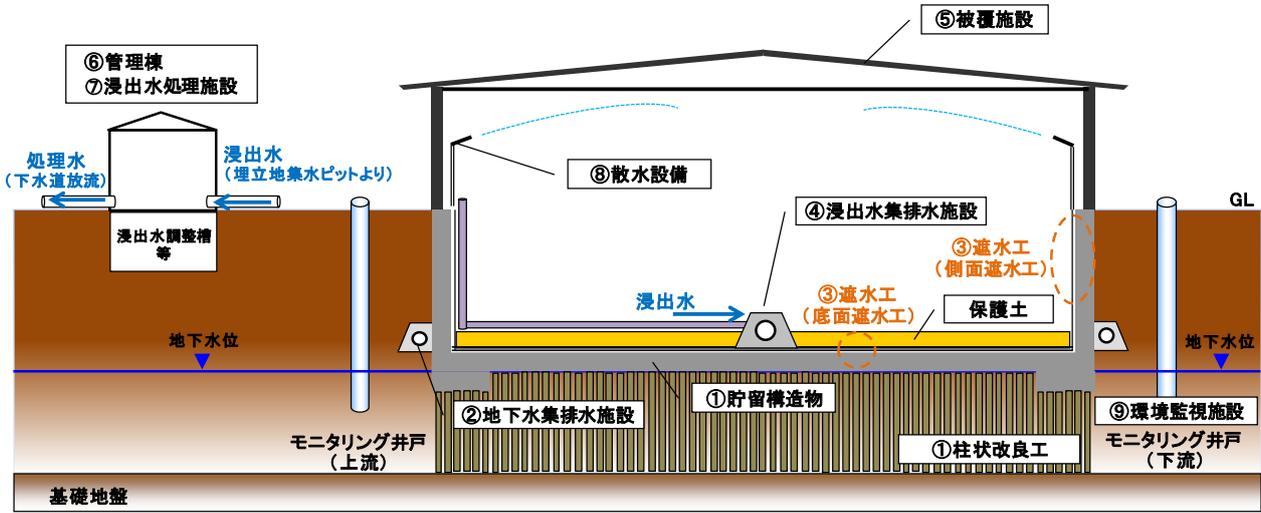
パース (案) 南西側より



パース (案) 北東側より

4. 施設基本設計の概要

最終処分場を構成する施設の概念図及び各施設の詳細概要を以下に示します。



施設の概念図

各施設の詳細概要

施設名	施設の目的	設計の概要
① 貯留構造物	埋立廃棄物を安全に貯留・保管するための構造物です。	【構造】L型擁壁(高さ11.5m)+底板コンクリート(厚み1.0m) 【軟弱地盤対策】柱状改良工
② 地下水集排水施設	地下水により、貯留構造物に浮力が働くことを防止するための施設です。	【配置】埋立地の外周 【構造】有孔ポリエチレン管 管周りには目詰まり防止用フィルター材設置
③ 遮水工	埋立地への散水に伴い発生する浸出水が外部に流出するのを防止するための施設です。	【埋立地底面】二重遮水シート構造 電気的漏水検知システム設置 【埋立地側面】一重遮水シート構造
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>側面遮水工：【一重遮水シート構造】</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>底面遮水工：【二重遮水シート構造】</p> </div> </div>	
④ 浸出水集排水施設	埋立地への散水に伴い発生する浸出水を速やかに集排水し、浸出水処理施設に送水するための施設です。	【配置】埋立地底面(魚の骨状に配置) 【構造】有孔ポリエチレン管 管周りには目詰まり防止用フィルター材設置
⑤ 被覆施設	埋立地に雨等が入らないよう埋立地を覆う建物です。また、埋立物の飛散等による周辺環境への影響を防止します。	【構造】鉄骨造 【規模】長辺 約131m×短辺 約106m 【屋根材及び壁材】ガルバニウム鋼板製折板及び白色透明ポリカーボネイト板(採光用) 【その他】南側屋根には、太陽光発電設備の設置が可能
⑥ 管理棟	本施設を運営・維持管理するための建物であり、そのために必要となる諸室を配置します。また、浸出水を処理する機器及び設備も配置します。	【構造】鉄骨造 【諸室】管理室、処理室、会議室及び環境学習室等を配置

施設名		施設の目的	設計の概要
⑦	浸出水処理施設	浸出水集排水施設によって集められた浸出水を、下水道へ放流できる水質まで処理する施設です。	【処理方式】アルカリ凝集沈殿処理+砂ろ過処理 【処理能力】21m ³ /日 【浸出水調整設備容量】210m ³ (10日分) 【処理水放流先】下水道放流(荒川右岸流域下水道)
⑧	散水設備	埋立廃棄物を安定化させるために、埋立地に散水するための設備です。	【構造】固定式及び移動式散水ガン 【散水用水】雨水や地下水等を有効利用
⑨	環境監視施設	周辺環境への影響をモニタリングするための施設です。	【地下水環境】埋立地の上下流にモニタリング井戸を設けて、定期的に地下水の水質を計測 【作業環境】埋立地内にガス検知設備を設置
雨水調整池		本処分場の建設に伴い、発生する雨水の流出量を調整するための設備です。	【形式】地下式雨水調整池(容量:約4,700m ³) 【雨水処理】地下浸透 (基準以上の雨が降った場合は、中野川支流に放流)

5. 事業計画スケジュール(予定)

事業計画スケジュールを以下に示します。

年 度	H30	H31,R1	R2	R3	R4	R5	R6
基本設計							供用開始予定
生活環境影響調査							
PFI導入可能性調査							
実施設計・建設工事							
用地取得							
搬入・搬出道路整備	経路検証	測量、設計・用地取得、建設工事					

注1) 事業スケジュールは、用地の取得状況により変更となる場合があります。

注2) 平成31年度に行うPFI導入可能性調査で決定される事業方式及び発注方式によって、事業スケジュールが変更になる場合があります。

6. 今後に向けて

現在、最終処分場を有していない本市にとって、(仮称)第2一般廃棄物最終処分場の整備は必要不可欠です。したがって、本施設の整備にあたっては、地元住民のご意見に配慮し、周辺の自然環境との調和が図れ、本処分場が安全で安心な施設となるよう引き続き検討を行ってまいります。

さらに、昨今の厳しい財政状況のなか、事業手法及び発注方式の検討や施設計画の精査により、事業費の削減に努めます。